

データで見る医療用医薬品の小売市場

Vol. No. 3 September 15, 2000
Health and Welfare Department
岩屋孝彦 (Takahiko Iwaya)
天池麻由美 (Mayumi Amaike)

本年5月、Drug Store Newsは小売市場の動向 (State of the Market) を発表した。それによると医薬品を取り扱う小売店 (個人薬局、チェーンドラッグストア、スーパーマーケットまたは大型小売店の薬局部門) の1999年の医療用医薬品の総売上げは前年を18%上回る1,217億ドルであった。薬効分類別の売上げでは、抗うつ剤、抗潰瘍剤、抗高脂血症薬の売上げが最も高く、製品別ではAstraZeneca社の抗潰瘍剤Prilosecがトップであった。

本レポートではDrug Store Newsの発表を元に、小売市場での医療用医薬品の売上げ、価格、処方せんの取扱枚数についてレポートする。

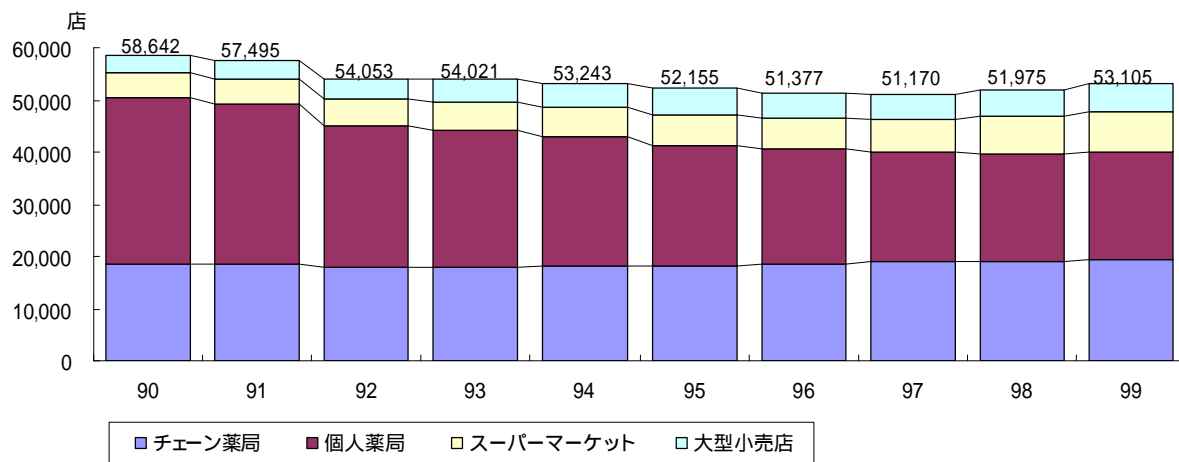
薬局数の動向 医薬品を取り扱う小売業は53,105店

1999年、医薬品を取り扱う小売店 (個人薬局、チェーンドラッグストア、スーパーマーケットまたは大型小売店の薬局部門) は53,105店あり、前年の51,975店を上回った。経営形態別では個人薬局の数が最も多く (20,649店) 続いてチェーンドラッグストア (19,329店) スーパーマーケット (7,823店) 大型小売店 (5,304店) となっている。

図表1は薬局数の推移を示しているが、90年に58,642店あった薬局は減少を続け97年には51,170店にまで落ち込んだ。経営形態別の推移を見るとチェーンドラッグストアやスーパーマーケットが店舗数を増やしたものの、90年に総薬局数の過半数を占めた個人薬局が急速に減少したことがわかる。チェーンドラッグストアをはじめとする大手チェーン店は、その集客力や大量購入を武器に大幅なディスカウントを実現しているのに対し、こうしたバイイングパワーを持たない個人薬局は大手チェーン店と比較して高価格での仕入れを余儀なくされる。こうした背景から厳しい経営環境に置かれた個人薬局が相次いで閉店したことが予想される。

http://www.jmari.med.or.jp/

(図表1) 薬局数の推移

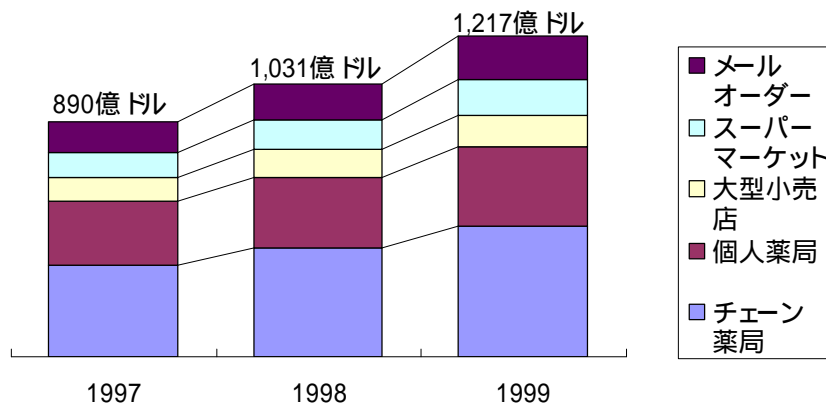


出典：National Association of Chain Drug Stores

医療用医薬品の売上げ 前年比 18% 増の 1,217 億ドル

1999 年、メールオーダーを含む小売市場での医療用医薬品の売上げ総額は 1,217 億ドルで前年を 18% 上回った。経営形態別の売上げではチェーンドラッグストアが最も多く、全体の 40.9% を占める 498 億ドルであり、そして、個人薬局 (299 億ドル) とメールオーダー (166 億ドル) が続く (図表 2)。

(図表 2) 医療用医薬品の売上げ



出典：IMS Health, NACDS

医療用医薬品の売上げトップ 10 薬効分類別では抗うつ剤、製品別では Prilosec (抗潰瘍剤) がトップに

医療用医薬品の薬効分類別の売上げ (1999 年) をみると、抗うつ剤の売上げが 67 億ドルと最も高く、続いて抗潰瘍剤 (63 億ドル)、抗高脂血症薬 (54 億ドル) となってい

る。

売上高の前年比を見た場合、特に注目されるのは第7位の関節炎治療薬が79%増と増加率では他を大きく上回ることである。これには昨年発売が開始された Celebrex の売上げが大きく寄与していること（後述）が挙げられる（図表3）。

（図表3）薬効分類別（1999年、メールオーダーを除く）

薬効分類	売上げ (億ドル)	前年比の伸び (%)	市場シェア (%)
抗うつ剤	67	19	8
抗潰瘍剤	63	22	8
抗高脂血症薬	54	26	7
抗感染症薬	49	17	6
抗高血圧症薬	39	19	5
カルシウム拮抗薬(降圧剤)	34	2	4
関節炎薬	33	79	4
ホルモン剤	24	14	3
抗ヒスタミン薬(経口剤)	24	29	3
糖尿病薬(経口剤)	23	26	3

出典：IMS Health

製品別の売上げ上位10品目は図表4のとおりであるが、1999年に発売された Celebrex を除く全ての製品が1998年にも上位10位内に登場した。売上高では、抗潰瘍剤の Prilosec が32億ドルと最も高く、続いて抗高脂血症薬 Lipitor（23億ドル）、抗うつ剤 Prozac（20億ドル）となっている。

（図表4）製品別の売上げ上位10品目（1999年、メールオーダーを除く）

製品名	薬効分類	企業	売上高(億ドル)	前年比増(%)
Prilosec	抗潰瘍剤	AstraZeneca	32	24
Lipitor	抗高脂血症剤	Parke-Davis	23	56
Prozac	抗うつ薬	Eli Lilly	20	5
Prevacid	抗潰瘍剤	TAP	17	65
Zocor	抗高脂血症剤	Merck	15	17
Zoloft	抗うつ薬	Pfizer	13	12
Claritin	抗ヒスタミン薬	Schering Plough	12	18
Paxil	抗うつ薬	SKB	11	16
Celebrex	関節炎薬	Searle	11	N/A
Norvasc	降圧剤	Pfizer	11	17

出典：IMS Health

また、1999年に発売された医療用医薬品は20品目あるが、その中で最も高い売上げを記録したのは関節炎治療薬の Celebrex である。1月あたりの売上げを他と比較しても最も高い（図表5）。

http://www.jmari.med.or.jp/

(図表5) 1999年に発売された医療用医薬品の売上げ上位

製品名	薬効分類	企業	販売開始	売上げ (百万ドル)	1月あたり* (百万ドル)
Celebrex	関節炎治療薬	Searle	1月	1,418.8	118.2
Vioxx	抗炎症薬	Merck	5月	373.3	46.7
Xenical	肥満治療薬	Roche	4月	146.3	16.3
Avandia	糖尿病薬	SKB	6月	132.6	18.9
Cartia XT	降圧剤	Andrx	6月	123.6	17.7
Ditropan XL	膀胱障害	Alza	1月	85.1	7.1
Terazosin	降圧剤	Geneva	8月	79.5	15.9
Actos	糖尿病薬	Takeda	7月	60.0	10.0
Propofol	麻酔薬	Baxter	4月	53.6	6.0

*1月あたりの売上げは、総売上げを販売開始月から12月までの月数で除した。

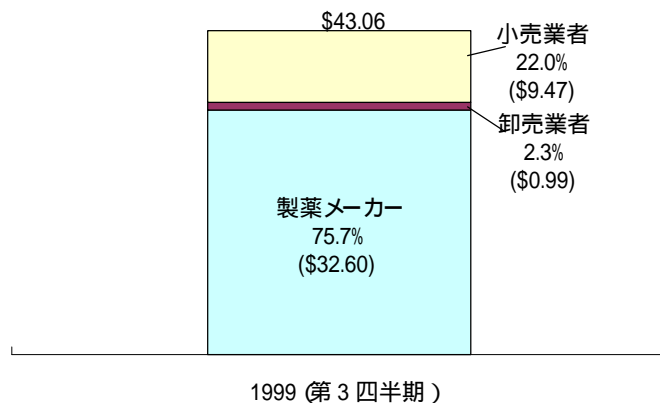
出典：IMS Health のデータを基に当部署で作成

医療用医薬品の平均価格

1999年の医療用医薬品の平均小売価格は、ブランド品で前年比8%増の\$61.33、ジェネリックでは同2%増の\$18.43だった。

医療用医薬品全体の平均小売価格は\$43.06であったが、その価格構成をみると製薬メーカーの売上げは\$32.60(全体の75.7%)、小売業者(薬局)は\$9.47(同22%)、そして卸売業者は\$0.99(同2.3%)であった。

(図表6) 医療用医薬品の平均小売価格構成(1999年第3四半期)

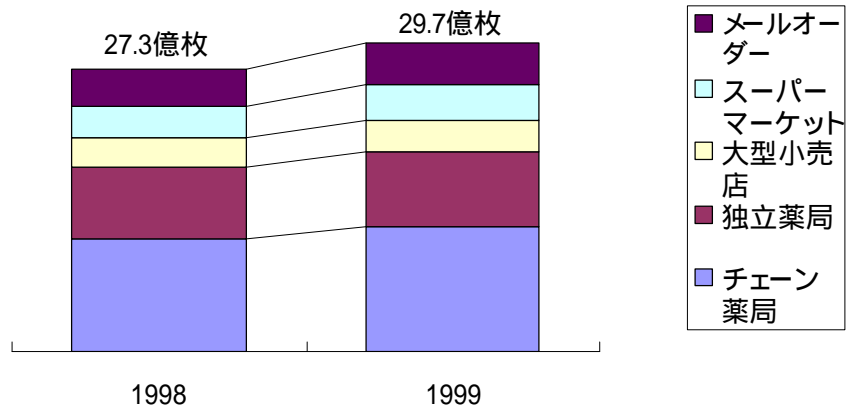


出典：National Association of Chain Drug Stores, Industry Facts-at-a-Glance

処方せんの取扱枚数 前年比8%増の29億7,000万枚に

1999年のメールオーダーを含む小売販売での処方せん取扱い枚数は約29億7,000万枚であり、前年を8%上回っている。経営別形態にみるとチェーン薬局が12億枚と最も多く、ついで個人薬局(7億2,000枚)、メールオーダー(4億枚)となっている。

(図表7) 小売販売での処方せん取扱枚数



* 1回あたりの販売量が対面販売よりも多いメールオーダーについては、処方せん1枚 = 3枚分として換算。

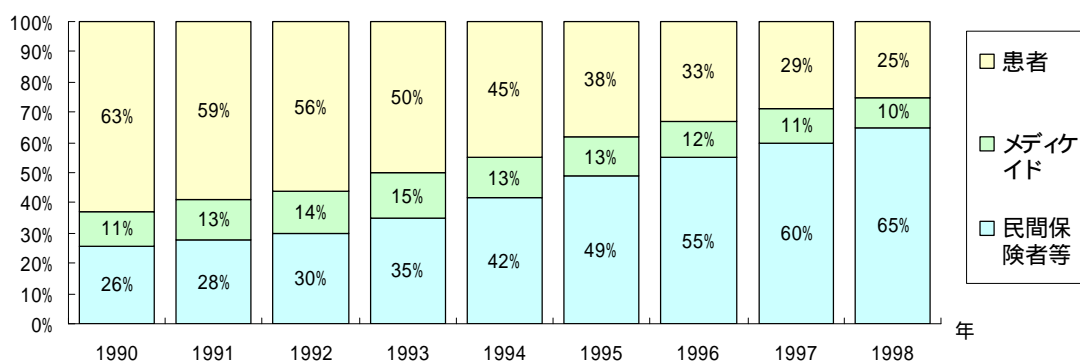
出典: National Association of Chain Drug Stores, IMH Health

医療用医薬品の支払い状況 民間保険等の負担が70%。患者は20%

1990年以降のマネジドケアの普及とともに、現役世代が加入する民間医療保険における薬剤給付が急速に拡大した。この給付拡大の背景には、医薬品を使用した治療の方が手術や入院よりも費用対効果に優れているとの判断がある。1999年、小売店で販売された医療用医薬品の70%は民間保険等によって支払われており、患者本人は20%、メディケイドは10%となっている。

図表8は小売販売された医療用医薬品の負担割合の推移を最終支払者別に示したものである。1990年では63%が患者によって負担されたがその割合は年々縮小し、1998年には25%であった。一方、民間保険者等の負担は26%から65%と大きく増加しており、患者と民間保険者がそれぞれ負担した割合(値)が逆転している。

(図表8) 小売市場における医療用医薬品の最終支払者別の負担割合(1990-1998)



出典: IMS Health

http://www.jmari.med.or.jp/